副　本

乙第7号証

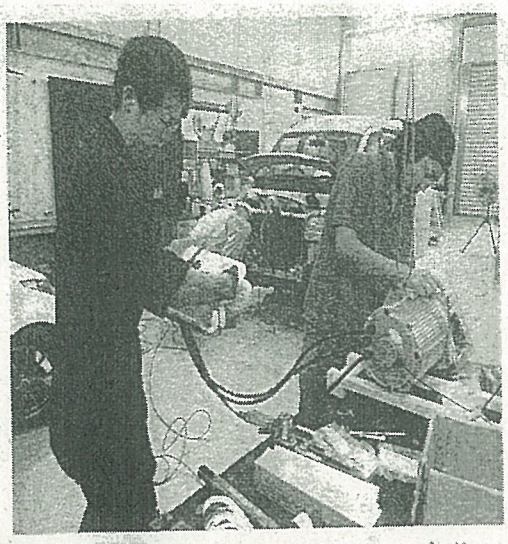
沖縄タイムス　平成24年8月4日(土)

中古車から電気自動車

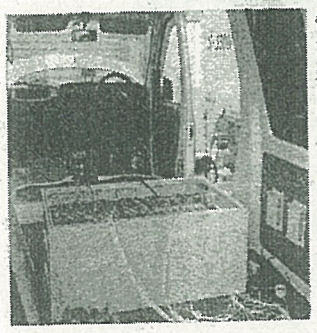
ものづくりネット コスト低減へ研究　近く試作品　普及に一石

県内のものづくり産業の底上げを目的に今年4月設立された一般社団法人ものづくりネットワーク沖縄(うるま市、金城篤順理事長)が、中古のガソリンエンジン車をバッテリーとモーターで動く電気自動車に転換する技術研究に取り組んでいる。中古車をベースに電気自動車として改造できれば生産コストを抑えられ、安価に普及できる可能性が広がる。近く、試作品が完成する。

(座安あきの)



(右)モーター部分の組み立て作業にかかるものづくりネットワークのスタッフ
(下)ガソリンエンジンに代わって搭載されるリチウムイオン電池=いずれも1日、うるま市・素形材産業貸工場



中古車のエンジン部分を取り外し、代わりにリチウムイオン電池36個(115ボルト・100㌃)を搭載。走行距離はおよそ80キロ㍍、最大時速は70～80キロ㍍になる。電池からモーターを介して、車輪やエアコンなどに動力をどう送るかが研究課題。

金城理事長は「沖縄の優位性が生かせる島しょ県ならではのコミュニティー自動車が完成する。EV車製造分野の核となる人材育成に力を入れ、事業化を目指したい」と意気込んでいる。

環境負荷の低いエコカー開発市場は従来のEV自動車やハイブリッド車に加え、高齢化で単身世帯が増える中、車や公共交通機関に代わる新たな移動手段として超小型の電気自動車(マイクロEV自動車)の市販化を目指す動きも活発化している。

今年3月には、県金型技術研究センター(うるま市)を中心に県内企業15社が共同でマイクロEV自動車の開発に成功した。その際、ボディー部分の製作にもっとも費用が掛かった経験から、ものづくりネット社は既存の車体をそのまま再利用できる中古車の活用に焦点を当て、より費用対効果の高いEV車製造方法の研究を進めてきた。

「EV車の事業を軌道に乗せるには、金型技術者だけでなくものづくりに関する総合的な知見のある人材が不可欠」と金城理事長。研究成果を実用化へとつなげることを念頭に、EV自動車分野の専任社員3人を配置した。普及を見据え、将来は県内の整備工にEV車の整備技術を広める人材育成事業も手掛ける予定だ。